

【サロマ湖地域】

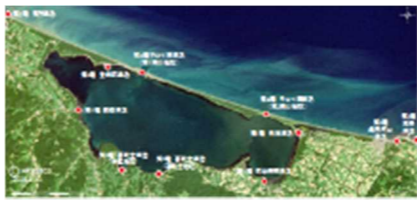



地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（令和3年の取組、令和3年1月～12月）

●漁場環境保全・改善と循環型社会への対応（地域全体の取り組み）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①漁場環境保全・改善と循環型社会への対応               <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロマ湖の環境保全</li> <li>・養殖許容量自主規制の実施</li> </ul> </li> </ul> <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○サロマ湖環境モニタリング調査</li> <li>○サロマ湖増養殖研修会（報告会）</li> <li>○サロマ湖環境保全対策連絡協議会</li> </ul>	<p>取組場所</p>  <p>【取組の様子】</p> <p>令和3年のサロマ湖環境について 〔サロマ湖養殖漁業協同組合調査結果から引用〕</p>
現状における取組実施の背景	<p>第4種サロマ湖漁港において、サロマ湖とオホーツク海を結ぶ2つの湖口を通じ日々の潮位干満差によるオホーツク海との海水交換が、湖内の水質や底質の浄化に大きな役割を果たしている。しかし、サロマ湖は半閉鎖性海域という地理的条件から、サロマ湖への流入河川を通して陸域からの外的な過剰な負荷、そして漁業生産活動に起因する内的な負荷によって、水質や底質環境の悪化を招きやすい特性があるため、漁場環境保全に取り組み、ホタテガイ・カキの養殖許容量自主規制を実施している。</p>	<p>●サロマ湖水質環境（北海道大学芳村先生）</p> <p>植物プランクトンの栄養のひとつである窒素類は9月まで少なかったが、クロロフィル量は比較的高い値だった。</p> <p>今年も底層では貧酸素が発生していたが、ホタテガイの垂下水深での酸素の低下はみられなかった。</p> <p>※上段：クロロフィル a 下段：窒素類</p> 
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖内における調査結果の蓄積が図られ、今後の検討の基礎資料となる。</li> <li>・関係機関との連携と情報の共有により、漁場環境保全の推進が図られる。</li> <li>・環境収容力を考慮した資源管理型漁業の継続が図られる。</li> </ul>	
<b>(2) 取組内容・実施体制 (Do)</b>		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>【取組内容、方法、手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロマ湖環境モニタリング調査</li> <li>・サロマ湖増養殖研修会及びサロマ湖環境保全連絡協議会による情報共有</li> </ul> <p>【実施体制】サロマ湖養殖漁協・湧別漁協・佐呂間漁協・常呂漁協</p> <p>【協議会の役割】関係団体との調整</p> <p>【大学及び試験研究機関との連携】国立環境研究所・北海道立総合研究機構地質研究所・北海道大学・東京農業大学・北海道栽培漁業振興公社</p>	
<b>(3) 効果項目に対する評価 (Check)</b>		
効果目標の達成度評価	<p>令和2年にサロマ湖養殖許容量を10年ぶりに見直し、環境モニタリング調査結果から、現行の許容量を継続することで決定したが、次回の見直しに向けて環境モニタリングを継続して行った。</p>	
反省点	<p>気候変動リスクへの評価を実施するためにも、今後も継続して環境モニタリング調査を実施する必要がある。</p>	
<b>(4) 取組の改善措置 (Action)</b>		
取組内容の改善点	<p>物質循環モデルを活用し、気候変動リスクの評価を実施する。</p>	
取組の実施に必要なもの	<p>調査の協力体制。</p>	

【サロマ湖地域】

●ブランド化（各地域の取り組み・湧別漁協）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <p>③水産物の付加価値向上と流通体制の整備</p> <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生食用1年カキ貝を「漁師が恋した小さな牡蠣 COYSTER」としてブランド展開</li> <li>・2年カキ貝を「龍宮かき」の商標登録を申請しブランド展開</li> </ul>	<p>取組場所</p> 
現状における取組実施の背景	<p>1年物のむき身は水揚げがピークとなる12月頃に出荷数が過剰になると価格が下落していた。また、サロマ湖産カキ貝の多くは主に道内で消費されているが、販路拡大により道外消費を促すため全国のPR活動が必要となっていた。</p>	<p>【取組の様子】</p> <p>【ゆうべつ食マルシェ】</p> 
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北限のカキ貝としてブランド化することにより価格の下落を防ぐ。</li> <li>・ブランド化することによる全国へのPR展開。</li> </ul>	
<b>(2) 取組内容・実施体制（Do）</b>		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>【取組内容、方法、手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湧別町ふるさと納税の返礼品として登録し、ブランド化の知名度向上を図る。</li> <li>・販売促進イベント『ゆうべつ食マルシェ』に参加し、「漁師が恋した小さな牡蠣 COYSTER」・「龍宮かき」の販売を実施した。</li> <li>・秋サケのブランド化に取組み4.5kg以上の選り抜いたオスのサケを船上で活けたものを「湧勝（ゆうしょう）」として令和2年度に販売。</li> </ul>	 <p>COYSTER 漁師が恋した小さな牡蠣</p>
<b>(3) 効果項目に対する評価（Check）</b>		
効果目標の達成度評価	<p>ふるさと納税返礼品として継続的に登録し知名度向上が図られた。</p> <p>カキ返礼品件数 2020年 3,592件 → 2021年 3,729件（R3.12.19現在）</p>	
反省点	<p>ブランドの知名度向上に向けた情報発信力の強化が必要。</p> <p>秋サケ漁が多忙であったため、船上活けを行う時間が取れず「湧勝」として販売できなかった。</p>	
<b>(4) 取組の改善措置（Action）</b>		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント主催者や企業等との連携により新たなPR方法の検討。</li> <li>・供給量の確保が必要である。</li> <li>・ブランド化の継続的な取り組み。</li> </ul>	
取組の実施に必要なもの		

【サロマ湖地域】

●ロボット等設備を導入した自営加工場の検討（各地域の取り組み・湧別漁協）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <p>⑤漁協経営の健全性の維持</p> <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業操業や漁協自営加工事業の効率的な推進</li> </ul>	<p>取組場所</p> 
現状における取組実施の背景	湧別漁協では、平成 27 年度から平成 28 年度の 2 ヶ年間において、一般社団法人日本ロボット工業会の「ロボット導入実証事業」の補助採択を受け、ホタテガイ加工分野でのロボット活用における省力化・省人化の有意性についての実証事業を行った。	<p>【取組の様子】</p> <p>【ホタテガイ自動生剥き機（オートシェラー）の増設】</p> 
取組により期待する効果	<p>実証事業により熟練作業員の技術と同等以上の作業性・品質性が確認されており、ロボット活用により安全性が図られ、且つ増産拡充の構築も可能となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員削減</li> <li>・製品歩留りの向上</li> <li>・様々な形、大きさの原貝への対応</li> </ul>	<p>【原貝をホタテガイ自動生剥き機にセット】</p> 
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化や人手不足が課題とされているホタテガイ加工の現場において、先端的なロボット活用が省人化・省力化となることの実証実験の継続。</li> <li>・ロボット等施設を導入したホタテ玉冷加工場新設の検討。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大により外国人技能実習生が来日できない等、働き手不足が深刻なことから、令和 3 年度に「ホタテガイ自動生剥き機（オートシェラー）」を 1 台増設し加工処理体制の維持を図った。</li> </ul>	<p>【上貝の開口工程】</p> 
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網走水産試験場による品質試験等により、手剥きとほぼ同等な品質であることが確認された。</li> <li>・省人化の実現（11 名→2 名）</li> <li>・製品歩留りの向上（0.71%向上）</li> <li>・ロボット改良による作業効率の向上。</li> </ul>	
反省点		
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出拡大に向けた HACCP 施設への対応。</li> <li>・様々な形、大きさ原貝への対応できるよう改良を重ねていく。</li> </ul>	
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自営加工場の施設規模・費用対効果の検討。</li> </ul>	

【サロマ湖地域】

●情報発信・地域づくり活動（地域全体の取り組み）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
<p>地域 MV における取組の位置付け</p> <p>【地域の目指す姿】 ⑥漁村の活性化と人づくり 【主な取り組み】 ・次世代を担う青少年の育成 ・農林水産業・商工業が連携したイベントの展開 ・都市との交流の推進 ・広域観光ネットワークの形成 ・安心安全な漁業地域づくりの推進</p>	<p>取組場所</p> 	<p>【取組の様子】</p> <p>《ゆうべつ食マルシェ：札幌市》</p> 
<p>現状における取組実施の背景</p> <p>主に、サロマ湖地域では、3漁協の女性部や青年部が体験漁業、学校での出前授業などの活動を行い、次世代を担う青少年を育成し、サロマ湖地域内外との交流を促進して地域の活性化を図っている。 また、1市2町、3単協が地元の関連産業と連携し、地産地消や交流の場として地域の活性に寄与している。 サロマ湖地域の漁業、行政、関係機関が一体となって、安心安全な漁業地域づくりを推進している。</p>	<p>取組により期待する効果</p> <p>サロマ湖地域の各種取組を通じて、将来の魚食文化を支える子ども達に、地域水産物に対する理解を深めてもらい魚食の普及を図るとともに、地域漁業後継者等の育成を期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部及び青年部によるイベント等の開催目標数 4回</li> <li>・各地域特産物販売イベント等の開催目標数 3回</li> </ul>	
<p>(2) 取組内容・実施体制 (Do)</p>		
<p>取組内容、方法、手順、実施体制</p>	<p>【取組内容、方法、手順】 令和3年に開催したイベント等 ・ゆうべつ食マルシェ（12/4～5）湧別町産業間ネットワーク ・牡蠣まつり（11/23）常呂漁協直売店（友好提携・岐阜県 JA いび川特産「富有柿」販売） 【実施体制】湧別漁協・佐呂間漁協・常呂漁協・湧別町・佐呂間町・北見市</p> <p>※令和3年、開催が中止になったイベント等 秋のサロマ湖まつり（青年部）、食育活動（女性部） 湧別漁協かき祭り（湧別漁協）、サロマ湖大収穫祭（佐呂間町）、ところ物産まつり（北見市）</p>	<p>《牡蠣まつり：北見市常呂町》</p> 
<p>(3) 効果項目に対する評価 (Check)</p>		
<p>効果目標の達成度評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部及び青年部によるイベント等の開催数 0回</li> <li>・各地域特産物販売イベント等の開催数 2回</li> </ul> <p>令和3年においても、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により活動が制約されたことにより、開催を予定していたイベントが中止になってしまった。</p>	
<p>反省点</p>		
<p>(4) 取組の改善措置 (Action)</p>		
<p>取組内容の改善点</p>	<p>感染拡大が長期化する中でイベント規模に対応した感染防止対策。</p>	
<p>取組の実施に必要なもの</p>		<p>※JF全漁連が運営するWEBメディア「Sakanadia（サカナディア）」から牡蠣の日のイベントとして、第5回ところ牡蠣まつりの開催について紹介されました。</p>